

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

観点をもち子どもの体験を読み取る／学校法人中沢学園 みなみ若葉幼稚園

誰もが1度は遊んだことがあり、子どもたちの興味を誘う玩具「風車」。この事例は、5歳児が作って遊んでいる風車に、4歳児が興味をもったことがきっかけになっています。保育者は子どもが興味をもつことを見通して環境を設定し、一人ひとりを受け止めたり友達とのかかわりを支えたりして保育の工夫を図っています。そして、4つの観点（ときめく・はずむ・ひろがる・ふかまり）で色分けして記録を工夫することで「科学する心」が育まれる体験を読み取っています。



### ○ 風は友達！（風車を作って遊ぼう）／4歳児

#### 保育の工夫

昨年風を感じて親しんだ進級児と共に、新入園児も見えない風を感じてほしいと思い、保育室ベランダに風車を設置する。

- （風により）網戸が開いたり掲示物が外れたりする。  
Sちゃん：「風さんっていたずらが好きなんだよ。風さんって面白いねえ」と微笑んでいる。（ときめく）  
Tちゃん「本当にいたずらっ子だね」（ときめく）
- ベランダの風車を毎日見る。  
Qちゃん「元気よく回ってる！」（ときめく）  
Rちゃん「今日は回ってない…なんだか悲しそう…元気な～い」（ときめく）  
Sちゃん「いっぱい回ると、きれいだよね！大風だ」（ときめく）  
新入園児Nちゃん「ああいうの作ってみたいな…」とつぶやく。（はずむ）



#### 保育の工夫

5歳クラスが風車を作って園庭で遊ぶ時間に、刺激を受けられるように4歳児も園庭に出るようにする。

- 5歳児が園庭で、風車で遊んでいるのを見て、「あっ、風車！」と喜び、近づく。5歳児に作り方を教えてもらい、材料のトイレットペーパーの芯集めが始まる。
- トイレットペーパーの芯と爪楊枝、ストローで風車を作って遊ぶ。
- 風車を持って走ったり、自分自身が回ったり、それぞれがやりたい回し方を楽しむ。（はずむ）
- 「（開いている窓に風車を向け）ここだと良く回るよ」と嬉しそうに回している。「うん、良く回る！」と友達と並んで楽しんでいる。（はずむ）



#### 保育の工夫

友達の風車と自分の風車の共通点や違いに気づき、認め合う気持ちをもてるように、個々の風車を、クラス全体に紹介する。

- Tちゃん「後ろ向きでも回るよ」とやって見せる。（ひろがる）

- Oちゃん「僕がゆっくり歩くと風車もゆっくり回る。僕が走ると風車も早く回る！！」と自分の発見を喜ぶ。(ひろがる)
- 実際やってみた子どもたちはOちゃんの発見が正しいと分かる。そして、Oちゃんは友達に褒められ、素直に喜ぶ。(ひろがる)
- Pちゃん「見て！フーってやっても回るよ！！」とやって見せる。(ひろがる)
- Qちゃん「ほんとだ！回るね。あれっ？なんか、音がするよ」(ひろがる)
- Pちゃん「あーあ、すぐ落ちる！」(ひろがる)
- Tちゃん「(爪楊枝は)短いかからだよ。長いのにしたらいいんじゃない！」(ひろがる)
- 「Nくんのきれい！（羽根の模様が）丸になってる。お皿みたい！」(ひろがる)
- 「Nくんみたいに（羽根を5枚）したい。（羽根が）いっぱいの方がよく回るから…」など、遊びながら気付いたことを言う。(ひろがる)
- 風車を回すだけでなく、回っている風車にも注目して、きれいに回したい気持ちが芽生え、また風車を作る。材料のトイレトーパーとキッチンペーパーの芯が集まる。今度はキッチンペーパーの芯で作りたい子が多いが、希望者の分はない。
- Nちゃん「これ（トイレトーパーの芯）を2つつなげれば長くなるよ」(ひろがる)



#### 保育の工夫

R児の風車がうまく回らず、しょんぼりしていることを全体に知らせ、どうしたらいいのか投げかける。

- Rちゃんが困っていることを知ったNちゃん「（風車を）まっすぐにすればいいんだよ」と、やって見せる。(ひろがる)
- Rちゃんは、風車をまっすぐに持ちゆっくりと前進した。「回った！！」嬉しそうに走り出す。(ふかまり)

#### 保育の工夫

「へえー、軽いと音がするんだ…」と話し掛けた。自分なりに考えた答えに満足している様子だ。何で不思議？と感じ、自分なりに考えて思い巡らせた過程が大切と考え、今回はそれ以上のことは求めず、見守る。

- 仲良しの友達同士で交換して遊び、お互いの風車に注目している。  
Qちゃんは「あれ？この前は音がしたけど、今度はしない！何でかな？」と言うと、Sちゃんは「（音が）しないね…何で？不思議!!」と言い、何度も風車を交換して確かめる。(ひろがる)
- Qちゃん「あっ、この前のは、軽いから音がしたんだ！！」(ふかまり)
- Sちゃん「そうか、軽いからだね！！」(ふかまり)

#### ✦ 考察

自分と同じように感じている友達と喜びや嬉しさ、驚きを共有し、不思議や疑問に対して自分なりにあれこれ思いを巡らせる過程が大切だ。

興味関心をもつポイントは様々で、一人ひとりの受け止め方や感じ方は違っている。自分とは違う気付きがあることを知り、お互いの良さを認め合えるようになる。そうした経験の積み重ねが子ども同士の心のつながりを強め、さらに活動が広がる。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」